



第8回アジア太平洋都市サミット
報告書

大連市

(2008年9月28日～9月30日)



アジア太平洋地域は、経済成長が著しい地域として世界の中で注目を浴びています。しかしその一方で、都市においては活発な経済活動に伴う人口集中等による様々な「都市問題」が深刻化しています。

このような状況にあって、「アジア太平洋都市サミット」は、アジア太平洋地域の諸都市の首長が一堂に会し、率直な意見交換等を行うことにより都市の友好親善はもちろん、都市問題の解決に向けた相互協力、更には相互の都市の一層の発展に向けたネットワークの構築を図ることを目的に、1994年から隔年で開催されています。

9月28日(日) 共同会見、歓迎夕食会



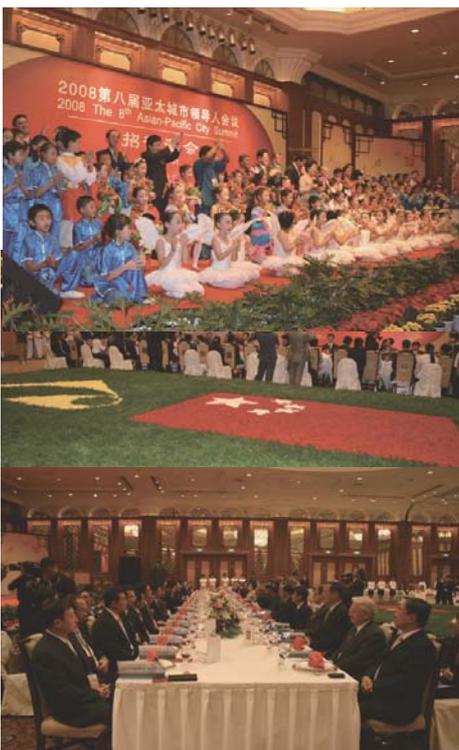
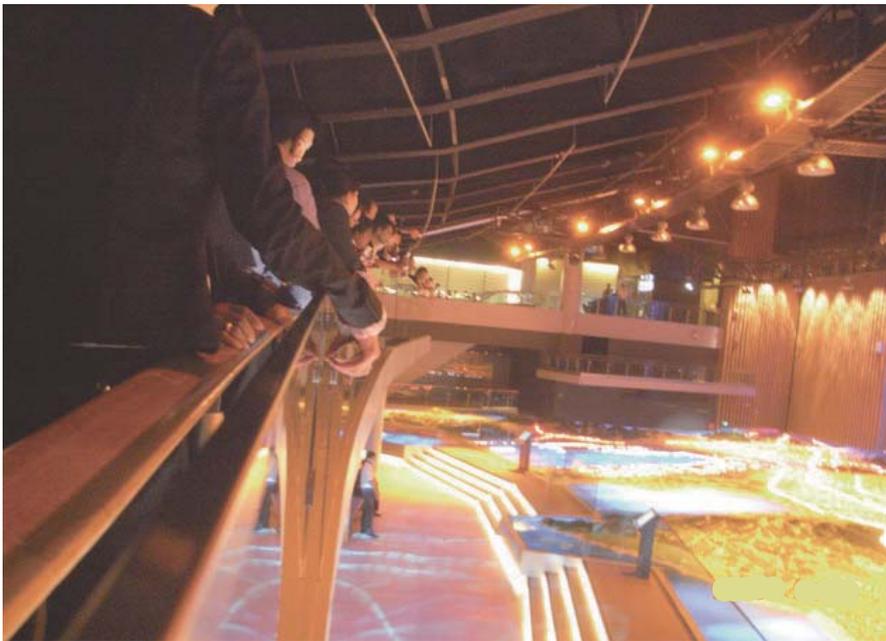
9月29日(月) 全体会議、基調講演、分科会



9月29日(月) 全体会議、基調講演、分科会



9月30日(火) 市内視察等



共同事業：大連ーバンコクー福岡 まちづくり市民交流ワークショップ



目 次

I 会議概要

(1) 会議の名称	1
(2) 開催期間	1
(3) テーマ	1
(4) 会場	1
(5) 主催	1
(6) 使用言語	1
(7) プログラム	2
(8) 会員都市位置図	4

II 会議内容

1 全体会議

(1) 開会の言葉	5
(2) 来賓挨拶	10
(3) 基調講演者プロフィール	12
(4) サミット提唱都市挨拶	14
(5) アジア太平洋都市サミット事務局事業説明	15

2 分科会（会員都市のみ掲載）

分科会の発表原稿につきましては、都合によりアジア太平洋都市サミット事務局で要約しております。なお、全文につきましては、追ってホームページに掲載する予定です。詳しくは事務局までご連絡ください。

(1) 釜山市（韓国）	19
(2) 光陽市（韓国）	24
(3) 広州市（中国）	28

(4) 北九州市（日本）	35
(5) 熊本市（日本）	40
(6) 浦項市（韓国）	46
(7) 福岡市（日本）	48
(8) 宮崎市（日本）	52
(9) 長崎市（日本）	57
(10) 上海市（中国）	60
(11) ウラジオストク市（ロシア）	61
(12) ウルムチ市（中国）	64
3 APCS 共同事業：APCS Charm Hunting Workshop 3	
(1) スケジュール	71
(2) ワークショップ概要	72
(3) 福岡市・バンコク都からの提言	73
(4) フォトマッピングセッションから気づいたこと	74
III 共同宣言	75
IV 参加者名簿	76
V サミット規約	84
VI 参考資料	
(1) 実施状況	88
(2) 新聞報道記事等	89

I 会議概要

(1) 会議の名称

第8回アジア太平洋都市サミット
The 8th Asian-Pacific City Summit

(2) 開催期間

2008年9月28日(日)～9月30日(火)

(3) テーマ

全体テーマ： 「アジア太平洋先進都市～環境、資源、文化及び
産業に関する新思考～」

分科会テーマ： ・アジア太平洋をリードする都市の地域的責任と地域協力
・現代都市資源の利用と管理
・都市における経済社会の持続可能な発展と環境保護
・現代都市文化の継承とイノベーション
・自然の恵みと都市産業の選択
・知識所有権の保護
・都市生態の保護
・都市の交通

(4) 会場

フラマホテル大連
中国大連市人民路60号

(5) 主催

中国大連市

(6) 使用言語

5か国語（中国語、英語、日本語、韓国語、ロシア語）

(7) プログラム

9月28日(日)

18:00～18:30	共同会見
18:30～20:00	歓迎夕食会

9月29日(月)

8:30～9:00	共同会見
9:00～11:45	全体会議 歓迎挨拶…大連市長 夏徳仁 (Dr. Xia Deren) 挨拶…中国人民対外友好協会副会長 李建平 (Mr. Li Jianping) 挨拶…韓国前総理 韓明淑 (Mrs. Han Myeong-sook) 基調講演1 “クリエイティブエコノミーの父” Mr. John Howkins 基調講演2 学校法人立命館理事長 長田豊臣 (Mr. Nagata ToyoOmi) 挨拶…福岡市長 吉田宏 (Mr. Yoshida Hiroshi) アジア太平洋都市サミット事務局報告 新入会員表決
11:45～12:00	参加都市代表者記念撮影
12:10～13:00	昼食
13:30～17:50	分科会 釜山広域市 (韓国) 政務副市長 郑乐亨 (Mr. Jeong lak hyeong) 光陽市 (韓国) 市長 李聖雄 (Mr. Lee Sung-woong) チェレムホボ行政地区 (ロシア) チェレムホボ行政地区経済部長 Mr. Dmitry Khorokhonov 広州市 (中国) 広州市都市計画局設計所副所長 Mrs. 黎亦众 北九州市 (日本) 副市長 麻田千穂子 (Ms. Asada Chihoko) 熊本市 (日本) 副市長 森田弘昭 (Mr. Morita Hiroaki) 浦項市 (韓国) 市長 朴承浩 (Mr. Park Seung-ho) 福岡市 (日本) 市長 吉田宏 (Mr. Yoshida Hiroshi) 宮崎市 (日本) 市長 津村重光 (Mr. Tsumura Shigemitsu) 長崎市 (日本) 副市長 椎木恭二 (Mr. Shinoki Kyoji) 上海市 (中国) 上海市政府副秘書長 尹弘 (Mr. Yin Hong) ウラジオストク市 (ロシア) 副市長 Mr. Zubritskiy Alexander トムスク市 (ロシア) 第一副市長 Mr. Nikolaychuk Nikolay ウルムチ市 (中国) 市長 吉尔拉・衣沙木丁 (Mr. Jierla Yishamuding) ロサンゼルス郡 (米国) Mr. William Allen, President & CEO of the LAEDC Mr. Vance Baugham, President of the WTCA ボラレスガムワ市 (スリランカ) 市長 Mr. K.D. Aruna Priyashantha
17:30～17:40	質疑応答
17:40～17:50	議長総括
18:00～19:30	大連市人民政府歓迎レセプション

9月30日（火）

9:00～12:00	市内視察 東海公園広場－北大橋－星海湾広場－大連 Ascendas IT パーク
12:00～13:00	昼食
13:00～17:00	市内視察 経済技術開発区－童牛嶺展望台－金石灘国家観光リゾート－金石ゴルフ場－モデル学校

サミット共同事業：APCS Charm Hunting Workshop 3

9月29日（月）

10:30～17:00	1. 福岡市からの事例発表 <ul style="list-style-type: none">・福岡市の概要・天神における魅力作りの取組・Green Bird 福岡の活動とまちづくり・博多における魅力ある駅づくり・にぎわいのあるまちづくり・バンコクで行ったワークショップ成果の応用及び共働まちづくりについて 2. 大連市の中心商業地区の現状と課題発表 <ul style="list-style-type: none">・大連市天津街における魅力づくり Walking Tour 天津街チャーム・ハンティング・ツアー <ul style="list-style-type: none">・天津街担当者と街歩き「魅力」の写真を撮る
-------------	--

9月30日（火）

15:00～17:00	Workshop 大連の魅力ワークショップ "Creating New Value" <ul style="list-style-type: none">■魅力プレゼンテーション：写真説明・発表<ul style="list-style-type: none">・福岡から見た天津街（チーム福岡7名）・バンコクから見た天津街（バンコクゲスト2名）■フォトマッピングセッション：写真配置比較
-------------	--

(8) 会員都市位置図



Ⅱ 会議内容

1. 全体会議

(1) 開会の言葉

都市の持続可能な発展を重視し

北東アジアの新しい先進都市を建設する

大連市長 夏徳仁

尊敬する韓明淑前韓国総理、尊敬する李建平副会長、尊敬する各都市の市長の方々、ご来場のみなさま

おはようございます。本日この美しい大連で、みなさまとお会いできたことを非常にうれしく思います。この度のアジア太平洋都市サミットは、非常に重要な会議です。その上、とても大事な時期に開催された会議でもあります。現行の世界は、いろいろな問題に直面しており、とりわけアメリカのサブプライム危機による世界経済の停滞は、アジア太平洋地域の発展にとって大きな困難となりました。このような特殊な時期に、市長の皆様がここ大連に一堂に会し、アジア太平洋地域の都市発展のこれからを展望し、都市間の協力を検討することは、非常に有意義なことだと私は考えています。この度の会議の重要性は、都市一つに限ったものではなく、アジア太平洋地域をも越えるものになると思います。今後のアジア太平洋地域の発展と、世界経済の発展にとっても大きな影響を及ぼすものになると私は思います。

大連の状況を簡単にご紹介します。

大連は中国の東北地方に位置する重要な都市で、遼東半島の最南端にあります。三方を海に囲まれ、背後には中国の東北地方があります。大連の面積は1万2500平方キロメートルで、人口は608万人です。

大連は北東アジアにおいても、重要な国際水上輸送センターで、世界160以上の国と地域の300以上の港と貿易関係を結んでいます。大連国際空港は、東北地方最大のターミナル空港で、開通しているラインは133ライン、去年の国際旅客数は、中国で第4位でした。大連は国際化のレベルの高い都市で、現在外資系企業1万2900社あまり、そのうち世界トップ500にランクインする88の会社が200近いプロジェクトを投資しました。実際の外資利用額は300億ドル以上に及びます。

大連のサービス業も急速に発展しており、すでに中国の会議展示センターとなりました。ここ数年、APEC高官会議、アジア・ヨーロッパビジネスフォーラムやWTO非公式閣僚会合などを開催し、昨年は夏期ダボス会議を行いました。ダボス会議は今年、天津で行われ、来年は大連で再び開催されます。大連は自然環境も美しく、国連グローバル500、世界人間居住環境賞、中国環境保護模範都市などの称号を獲得しました。2007年には、中国最優秀旅行都市の称号も獲得しました。

みなさま、今回の会議は、「アジア太平洋先進都市—環境、資源、文化及び産業に関する新思考」をテーマとし、経済グローバリゼーションの下での、アジア太平洋地域の先進都市の地域責任と地域協

力、そして現代都市が発展する上で直面する問題や新思考を議論するもので、本日のような経済情勢の下では、非常に重要な意味を持つと私は思います。この会議は、アジア太平洋地域の交流と協力、そして都市の発展にとって、大きな推進となると私は信じています。

都市の持続発展に注目し、新たな産業先進都市を作りあげることについて発言します。

1. 都市は経済発展の原動力である。

都市は空間と環境の利用を基礎として、経済効果の集約、人類の進歩を目的とする、人口、経済、文化そして科学技術などが集まった空間的なシステムです。都市は人口が集まった場所だけでなく、生産額を構成する各要素が集まったものでもあります。1900年には世界では、14%の人が都市で生活していましたが、今では半分以上の人が都市で生活しています。多くの国の都市では80%以上の就業チャンスと経済成長に貢献しています。

中国では都市人口は5.94億人に達し、都市化の比率は44.9%に達しました。全国のGDPの70%、税金の80%以上は都市が生み出しています。現在、主な先進国の都市は2%の国土面積をもって、97%以上の富を生み出しています。中国には現在600あまりの都市があり、これらは1%未満の面積で、70%以上のGDPを生み出しています。都市は経済を発展するための最も重要な場であり、経済が持続的により速く成長するために、最も大事な位置を占めます。

都市は発展を続ける地域空間として、文化、生態、人口などが集まった総合的な産物です。都市は経済の発展とともに発展し、また逆に、経済の発展にとって、大きな要因にもなります。中国を例にしますと、中規模の都市の都市化水準が、1%上がるごとに、農村の労働力14万人を吸収することができます。都市化が1%上がるごとにGDPは1.5%上がります。経済や社会の発展にとって、都市は決定的な役割を果たしています。国や地域にとって必要不可欠な原動力です。都市の文明は国の文明を代表していて、都市の成功のみが国の成功につながるのです。

2. 都市の人と自然の共存を求める。

現在、新興都市の人口の増加と、大都市の加速度的な発展が、世界の都市化の2つの主な特徴です。都市の誕生と発展は、経済の発展と社会の進歩を現しているわけではありませんが、そのような発展の中で、多くの問題にも直面しています。例えば環境汚染、ヒートアイランド効果、水資源やエネルギーの不足、交通問題、住宅問題、就業などの問題です。これらの問題を解決するには、昔の発展様式を変え、人と自然の共存を求めなければなりません。

改革・開放以来、経済の高速な発展により、中国の都市化も加速度的に発展してきました。しかしそれと同時に、都市の増大、人口の増加、渋滞、環境問題、エネルギーの不足などを特徴とする、「都市病」も生まれました。先進国がかつて歩んだように、「生産してから整備する」という道を歩むのか、それとも経済と社会が共存し発展する道を進むのか。これはすべての都市のリーダー達が直面する重大な選択であります。

大連はかねてより、この都市を人と自然が共存する都市として位置づけ、それを実現するために努力をしてきました。大連は生態型都市の建設を、持続発展の戦略の重要な一環とみなし、環境の建設を都市計画の各方面に行き渡らせました。生態文明という立場から、都市の発展と経済を測る視点を確立しました。生態型都市に関する企画と要綱などもうちだしました。都市の人口、経済の発展、都市のレイアウトと産業構造の融合、そして自然資源の保護と開発などの問題に際し、大連は国と国際

的に通用する原則をうちだし、それを徹底させました。その結果、都市建設、経済の発展、環境保護を統一させ、省エネかつ環境にやさしい工業システムを確立し、効率の高い経済システムを確立しました。そして社会文化、居住面でも目覚ましい成果をあげました。

大連の歴史を振り返ってみると、これらの成果の取得は、環境汚染への対処、企業の移転作業、緑化作業、住民の住宅プロジェクト、汚染整理プロジェクトを抜きにして語ることはできません。20世紀、90年代以来、大連では汚染企業に対し、移転を命じ、大連鉄鋼工場、大連石油化学工場、大連セメント工場など、200あまりの企業を移転しました。セメント企業36社を閉鎖しました。今年、パルプ製紙業などの企業を20社閉鎖しました。このような移転や改造を通して、産業構造の合理化につながり、都市部の産業の高度化と、都市が海に向かって発展することを促しました。今まで海に臨んでいても、海の恵みを利用できなかった問題を解決し、大連のビクトリアハーバーを建設し、都市の持続可能な発展のために新たな活力を生み出しました。また大連では、多くの省エネ措置を測定し、汚水処理場を11ヶ所新たに建設、または改造しました。汚水処理能力は90.3万トンで、市街地の汚水処理率は90.4%に達しました。また、生態・居住面でも力を入れ、去年のGDP1万元あたりの総合エネルギー消費は4%下がり、廃棄物は3.4%下がりました。現在、都市部では、1人あたりの緑地は11.1㎡で、都市の緑化被覆率は43.3%に達しました。2001年、イタリアのトリノで、大連は美しい自然環境と、暮らしやすい生態環境をもって、国連の「グローバル500」という称号を獲得しました。

3. 新たな情勢の下での都市産業の新思考

経済の要素を集約させるのは、都市化の主な動力の一つですが、都市化の過程において、産業の集約は都市の経済成長と繁栄を促す大きな原動力です。そのため新たな情勢の下での産業新思考を確立させ、循環型経済、そして自身の特色にかなった経済を確立させ、それをもって競争力を形成させることは、より一層大事なことになります。我々はいくつもの面でこれに取り組んでいます。

(1) 海岸線の資源を利用して、産業構造の調整を行う。

都市の資源はその都市がいかに関与するかを決定する重要な要素です。資源を十分に利用することは、人と自然の共存を促すだけでなく、都市化を推進するものでもあります。そして都市の競争力を高めることにもつながります。2004年大連では、海に近く、港があるという資源を利用して、重点産業を大連全域に行き渡らせるプロジェクトを実施しました。黄海、渤海の海岸線沿いに工業地区を建設し、大型企業を順次、北の地区に移転させ、その移転の過程において、循環型経済システムの確立に気を配りました。こういった操作と同時に、都市空間をも広くし、都市の発展を推進しました。移転した後、大連の都市の中心部はすべて、サービス業の発展に使われま

す。

2007年、船舶業や機械製造業の発展を促すために、工業地帯の建設を始めました。大連湾保税港区、大連自動車埠頭、そして保税港区などの地域を利用し自動車産業やデジタル産業を重点とする、臨港経済集約地区を建設し、そして大連湾の海岸線をもとに、大型機械を重点とする臨海集約を構築しました。そして北は長興島、南は旅順に至るまでの海岸を利用し、船舶業を重点とする産業ベルトを建設しました。これにより大連の競争力を一層高めることができました。今年の初めには、沿海経済ベルトの開発を再度行いました。このベルトにアジアでも重要なIC産業基地を建設し、大型石油化学基地や国家レベルの高品質鉄鋼材の基地なども建設しました。これ

らの新思考により、土地の配置を合理化させ、もともとの工業局面を改善し、国際的にも競争力をもつ現代的な産業基地を建設しました。企業の移転や、産業の改造のなかで、大連は生態環境にも注目し、夏家河海浜公園、前関湿地公園、大黒石海浜公園、大連湾森林公園、旅順国家森林公園、西郊国家森林公園などを建設しました。ここ2年間で建設した森林公園の総面積は、300平方キロメートル以上に達しました。これらの生態的なプロジェクトを通して、都市と緑が融合した生態的な都市を作りあげることができました。

(2) 自分のアドバンテージを活かし、世界的な産業転移を受け入れる。

経済のグローバル化の下で、世界的な産業の移転はさらに進むものとみられます。アジア太平洋地域の都市は、目覚ましく発展している時期にあり、独特なアドバンテージを有しており、これから世界資金が移転する重点的な地域となることが予想されます。

大連はかねてから自身のアドバンテージを活かし、投資環境の整備に努めました。現在新たな産業移転を受け入れるホットな地域になりつつあります。去年総投資額 60 億ドルのインテルプロジェクトは、すでに 25 億ドルが投入され、2010 年に生産が開始されると、大連がアジアでも最も重要な超大型集積回路の産業基地になることが予想されます。また大連湾保税港区、大連自動車埠頭などには、ドイツフォルクスワーゲンのエンジン、トランスミッションなどの企業が集まっており、すでに中国国内最大のエンジンや部品製造基地になりつつあります。また、渤海沿岸では STX 造船、万邦修造船、中遠造船などの造船企業や、海洋プロジェクトなどを建設しました。海洋プロジェクトというのは、石油採掘に使われるものです。2012 年には、大連の船舶生産能力は 1200 万トンになり、世界の 20% を占めることが予想されます。その時には、世界でも最も重要な船舶基地になることが予想されます。また有名な物流企業も大連に進出しました。アメリカのプロロディス、日本の伊藤忠商事などがそうです。大連湾保税港区は、物流業が集結するエリアになりつつあり、都市の持続可能発展のために、大きな原動力となり、これからの国際競争で勝ち残るためにも大きなバックアップとなります。

(3) 時代の先に立ち、新たな先進都市を作りあげる。

ハイテクノロジー産業を発展させることは、現在世界各国が追い求めていることではありますが、アジア太平洋地域の都市が特に力を入れていることでもあります。ソフト産業や情報サービス業は付加価値が高く、汚染がなく、エネルギー資本も少ないなどの特徴をもっています。今や世界的に人気な産業になっています。大連ではソフトやサービスのアウトソーシング先進都市を作りあげるという目標を掲げ、関連の園区の建設、人材の育成などの措置をうちだしました。

1998 年以来、大連の IT 産業、とりわけソフトウェア産業はゼロから始まり、発展を経て、すでに北東アジアのソフト情報産業センター、対日本ソフトアウトソーシングセンター、国家レベルのソフト模範基地になりました。高進技術園区には 30 以上の世界トップ 500 の企業が集まり、本土のソフト企業 271 社、オリエンタルソフトなど、3 つの本土企業は 4 年連続でソフトの輸出ベスト 3 になっています。去年のソフトの売上は、410 億元に達し、50% の成長を見込みました。今年には 300 億以上に上ることが予想されます。高進技術園区だけでも、年売上 100 億以上、輸出 6 億ドル以上が見込まれます。現在、旅順などの産業ベルトには、522 社のソフトや情報サービス企業が集まっており、そのうち雇用者が 1000 人以上の企業は 22 社に達します。

現在、大連は、さらに環境や政策の整備に力を入れていて、大企業を育てることに余念があり

ません。旅順などの産業ベルトの建設をこれからも推進していくつもりです。我々は 2012 年までに、ソフト企業を 2000 社以上にし、1 万人以上の大型企業を 5 社以上、5000 人の企業が 10 社以上、総雇用者が 20 万人、年売上が 700 億円になることを目標にしています。国内最大のソフト、アウトソーシング企業を建設し、産業の競争力では、中国トップを実現します。2017 年までに、産業規模や総合実力で、世界トップレベルに達し、大連を真の意味で中国のシリコンバレーに仕上げるつもりです。

市長の皆様、世界経済のグローバリゼーションに伴い、都市間の交流はより緊密なものとなりました。アジア太平洋地域には巨大なポテンシャルを秘めた都市が集まっています。現在、各都市は共同で同じようなチャンスに直面しており、同様にチャレンジにも直面しております。世界経済情勢が不穏な中、我々の交流や協力はとりわけ大事になります。本日の会議が、アジア太平洋地域の都市にとって、さらに協力そして交流を進める土台になればうれしいです。

我々がより交流し、より深く協力すれば、各都市がより一層発展すると私は確信しています。我々が手を取り合い、共同で発展し、win-win を構築し、アジア太平洋地域の未来を作りあげましょう。

どうもありがとうございました。

(2) 来賓挨拶

李建平 中国人民対外友好協会副会長

尊敬する韓明淑女士、尊敬する夏徳仁市長、尊敬する市長の方々、貴賓の皆様、

第8回アジア太平洋都市サミットは本日大連で開催される運びとなりました。中国人民対外友好協会と中国国際友好都市連合会を代表いたしまして、夏徳仁市長ならびに今般の会議にご出席賜りましたアジア太平洋地域の指導者の方々に熱烈なる祝賀の意を表したいと思えます。

中国にとって 2008 年というのは極めて特別な年です。今年、いくつかの注目すべき事柄が起きています。一つ目は、終わったばかりのオリンピックです。北京オリンピックはスポーツのイベントだけでなく、中国国民が世界の国民と友好交流を展開する重要なプラットフォームでもあったわけです。その成功裏の開催は、中国の国民が世界の国民と共同で平和と協力を追求し、友情と発展を友に勝ち取る意欲の表れでもあります。神舟 7 号は昨日の午後、安全に中国に戻ってきました。これもまた、記念すべきことです。今年、中国の改革・開放 30 周年の記念すべき年にもあたります。過去 30 年間に於いて中国は経済、政治、文化、社会発展のもろもろの分野において、著しい成果をあげています。ここで特に指摘すべきは、大連は我が国の成功を取得してきたモデルの一つだということです。

大連は今まで対外型経済発展を発展の重点に指名し、絶えず都市レベルをアップしていき、都市化がどんどん進展し、都市の顔ぶれがますます進化しています。経済社会はより良く、より速く発展しています。しかし、先ほど夏市長がご指摘されたように、大連市は現段階の実績に満足、あるいは陶醉しているのではなく、より実務的な態度で、前へ前へと邁進し、国民の生活を重視し、経済のさらなる発展を追求しています。

このような歴史的な瞬間において、大連市は今般のアジア太平洋都市サミットを開催することになりました。42 に上るアジア太平洋都市地域の主要都市の指導者の方々が一堂に会して、アジア地域の経済、社会、文化の分野について交流し合い、意見を交換しあうことは極めて重要なことであり、有意義なことであります。出席者のほとんどは、この地域の各都市の市長です。環境、資源、文化及び産業のイノベーション、新たな思考パターン等の分野において、みなさまは極めて貴重な経験をもっておられます。交流とコミュニケーションを通じて、成功の経験を勉強しあい、ブレインストーミングを通して新たな成果を生み出すことが予想されます。またそれぞれお帰りになった後、それぞれの都市において新たな局面が開かれることになるかと存じます。

中国は現在、大規模な都市化のプロセスの中にあります。都市化のレベルはどんどん高くなっています。都市の総数はすでに 656 にも到達しています。都市間の交流はますます重要性を増しており、民間交流の重要なコンテンツにもなりつつあります。35 年の発展を経て中国は世界各国と様々な形で協力関係を組み、友好都市の数はすでに 1500 を突破しています。中国人民対外友好協会は国务院の委託を受けて、都市協力を主管する部門として、今後も一貫的にみなさまの間の協力・発展をサポートしていきたいと思えます。協調のとれた世界の構築のために、一緒に努力しようではありませんか。会議の成功をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

韓明淑 韓国前総理

第8回アジア太平洋都市サミットの開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。夏市長、李副会長、友人のみなさま、今般このような形で歴史の悠久な大連において、このような素晴らしい会議に参加できて、大変うれしく存じます。北京オリンピックが成功裏に開催されました。中国人の1000年に及ぶ夢が実現されたわけです。夢が現実になりました。北京オリンピックの開催成功は中国人だけでなく、アジア人共通の誇りです。オリンピックの感動がまだ記憶に新しい中、私たちは悠久な歴史と文化を有し、非常にきれいな環境と良好な治安で有名な大連に来ることができ、第8回アジア太平洋都市サミットに参加することができ、大変光栄に存じております。

私はここまで10年間にわたり女性部長官、環境部長官、国務総理を歴任し、他のいかなる人よりも東アジアの発展と相互交流に大きな関心をもっておりました。とりわけこのような会議は私にとって極めて重要であります。21世紀は開放された世紀です。21世紀の都市は閉ざされた空間ではありません。これは多くの人種、文化、産業が共存し、交流を深める舞台です。科学技術と通信技術の日進月歩な進歩に伴い、世界の都市は現在リアルタイムに結ばれています。パソコンをつければ、世界中の情報が入ってきます。私が今住んでいるソウルから大連までは1時間の距離しかありません。国と国、都市と都市、人間と人間の間隔は未曾有に縮められています。21世紀において、都市、あるいは地域の境界線はますます異なる意味をもつようになっていきました。在来の意味がますますなくなっています。中国の問題が韓国の問題となり、韓国の問題は中国、そしてアジア太平洋地域全体の問題となるような時代が訪れています。このような中で我々がよりオープンな態度で、虚心坦懐で互いに意見を聞きあい、共通の青写真とソリューションをともに探るべきでしょう。これは単なる指導者の問題だけでなく、この地域の各国、各分野の産業界、及び国民の共通の努力が求められる時代です。アジア太平洋地域は現在、21世紀の世界経済を主導する新しい成長センターになりつつあります。この地域は都市のスプロール化、急激な膨張により発生した人口の流入、及び環境問題に取り組んでいますが、様々な矛盾も起こっています。皆様はよくご存じだと思いますが、気候変動、温暖化、地震、津波などの問題がはびこっています。様々な災害が絶えず発生しています。これは自然のルールを無視した、過度な開発による自然の人類に対する罰ではないかと私は考えています。今後は開発の中で、より良い環境との協調が求められることになるでしょう。今般の会議においてもこのようなテーマが設定されており、議論されることを期待しています。我々の会議は関連の重大なテーマについて真剣に取り込み、有益な成果が得られることを切に期待しています。

大連は600万人を有する大都市です。北東アジア地域を代表する国際海上輸送のセンターとして、すでに160以上の国と地域に航路が開通しており、ますます中国の都市からアジアの都市、世界の都市へと成長を遂げています。先ほど、夏市長も言われましたように、大連市は製造業だけでなく、IT、アウトソーシングの新しい中心地にもなりつつあります。これは大連のことだけでなく、今回の会議に参加されているすべての地域もおそらく大連と同じような成長の成果、あるいは悩みを経験されていると思います。そのために今回の会議は意味深いと思います。今回の会議のテーマは、「環境、資源、文化及び産業に関する新思考」です。著名な学者、指導者の方々も参加されていて、様々なイベント、セミナーが用意されています。今回の会議は、会員都市、オブザーバー都市の交流の機会だけでなく、協力をさらに展開していく大きなプラットフォームになると期待しています。

最後になりますが、今回の会議に多大なご尽力をされました大連市政府の関係者に感謝申し上げます。今回の会議開催のために多大な努力をされた薄熙来元書記に対しても感謝申し上げます。人間と

人間、都市と都市、国家と国家の努力が合流して、その相乗効果が期待されます。ありがとうございました。

(3) 基調講演者プロフィール

1. ジョン・ホーキンス

ジョン・ホーキンスは、ITR コンサルタントと John Howkins & Co, BOP コンサルタントの会長で、クリエイティブエコノミーの世界的発展の中心人物である。彼はまた、上海創造産業協会の監査官でもある。

ジョン・ホーキンスは新思考の世界的発展の立役者である。2001 年に出版された彼の著書、“**The Creative Economy**”は新しい経済に関する初めての報告となった。それ以来、彼は多くの世界的企業、国際機関、政府、企業を相手にコンサルタント業務を行ってきた。

現在、彼は、中国の Shanghai School of Creativity とイギリスのリンカーン大学の客員教授である。彼は上海創造産業と上海創造産業センターの顧問である。ジョン・ホーキンスの ITR オフィスは、北京の国際創造産業同盟のメンバーとなっている。

彼は創造性、革新、知的財産における「アデルフィ憲章」のディレクターをしている。彼は現在“Own It”と呼ばれているロンドン知的財産相談サービスを考案した。

彼はロンドン証券取引所の新興企業向け市場 AIM (エイム) (*Alternative Investment Market*) に上場している映画と権利の所有者、HandMade plc と Hotbed Media Ltd.のディレクターである。彼は、テレビ、映画、デジタルメディア、出版分野の経歴をもつ。ITR & Co のディレクターとして、ABC、BBC、CBS、欧州委員会、IBM、ニュース・コーポレーション、NHK、RAI、上海創造産業協会、Sky TV、ソニー、タイム・ワーナー、ユニバーサル・スタジオなどの顧客に助言をしてきた。彼はオーストラリア、カナダ、中国、フランス、ギリシア、インド、イタリア、日本、ポーランド、シンガポール、イギリス、アメリカを含む 30 以上の国で働いてきた。

彼はヨーロッパで 1982 年から 1996 年まで HBO 及びタイム・ワーナーのテレビ関係の仕事に関わっていた。彼は British Screen Advisory Council (BSAC) の副委員長、Creative Economy に関する国連諮問委員会のメンバー、ロンドンフィルムスクールの元委員長、国際通信学会 (IIC) の前事務局長、フリープロデューサー教会の副委員長である。

2. 長田豊臣

学歴

- 1962年 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻卒業
1965年 立命館大学大学院文学研究科修士課程西洋史学専攻修了
1993年 立命館大学文学博士

職歴

(立命館大学での職歴)

- 1965～70年 立命館大学文学部助手
1970～79年 同文学部助教授
1979年～ 同文学部教授
1993年～97年 文学部長
1997年～98年 立命館副総長・副学長
1999年～2006年 立命館総長・立命館大学長
2007年～ 立命館理事長

(他大学での職歴)

- 1974年～76年 プリンストン大学客員研究員(アメリカ学術会議(ACLS)招聘研究員)
1984年～85年 コロンビア大学およびニューヨーク市立大学客員研究員(フルブライト上級交換教授)
1988～89年 New School for Social Research 附属社会変動研究所客員研究員(アメリカ学術会議(ACLS)上級招聘研究員)

※基調講演の内容については、別途ホームページにて掲載予定

(4) サミット提唱都市挨拶

福岡市長 吉田宏

本日ここ大連市にて、アジア太平洋地域をはじめヨーロッパや北米を含め多くの都市にご参加いただき、第8回アジア太平洋都市サミットが開催されますことを心からお喜び申し上げます。私は、本サミットの提唱都市、事務局都市の市長としてご挨拶させていただくことを大変光栄に思いますとともに、まず今回の会議の準備のため、ご尽力くださった夏市長をはじめ大連市の皆様に深く感謝申し上げます。

本サミットは、アジア太平洋地域の首長が一堂に会し意見交換を行うことにより、急激な経済成長に伴って発生する都市問題の解決に向けて、都市間ネットワークの構築を図ることを目的として1994年に創設されました。21世紀の幕開けを経て、アジア太平洋地域は急速な成長を続ける一方で、環境問題などの課題もかかえており、今回のメインテーマの「アジア太平洋先進都市～環境、資源、文化及び産業に関する新思考～」は、まさに時宜を得たものと考えております。このアジア太平洋という地域が躍動し、世界の発展の一翼を担っていく。これは、世界の他の地域からも強く期待されているところであります。

本サミットは、事業の充実を図るため、2006年から事務局を本市のシンクタンクであります福岡アジア都市研究所に設置し、取り組みを進めております。

例えば、今回大連市の行政と福岡の市民の協働により、まちづくりのノウハウを提供し都市の魅力を向上させるワークショップが、サミット開催中にここ大連で行われます。これは、行政同士だけではなく、行政と民間が国境を越えて連携するというもので、昨年バンコク市での共同事業に引き続き開催されたものです。これは、本サミットによるネットワーク事業の着実な成果のひとつであり、後ほど事務局より報告が行われることとなっております。

今回のサミットでは大連市のご英断により、会員都市だけではなく、広くアジア太平洋地域に関心を持っておられる他の地域の都市の皆様にも参加を呼びかけておられ、この機会に従来の枠を超えた都市の間で都市問題の解決にあたっての情報共有が進み、それが更なるネットワークの構築に繋がることを願ってやみません。

最後に、第8回アジア太平洋都市サミットの成功、夏市長をはじめとされます地元大連市の皆様方のご健康、ならびに参加各都市の一層のご発展を心から祈念いたしまして、ご挨拶の言葉とさせていただきます。謝謝。

(5) アジア太平洋都市サミット事務局事業説明

福岡アジア都市研究所 理事長 樗木 武

私ども福岡アジア都市研究所は、2006年から福岡市と共にアジア太平洋都市サミットの事務局を務めさせていただいております。前回2006年8月に、ウルムチ市で開催されましたサミットでは、福岡市長から今後のサミットの充実についての提案を行い、会員都市の皆様のご同意を頂きました。このため、事務局では、これらの提案を実現していくための取組を進めております。本日はその活動の一部を紹介させていただきます。

まず私どもが取り組みましたのは、会員都市の皆様のお話をお聞きすることです。2007年前半に、ここに上げております23都市に直接お伺いしました。また、訪問出来なかった都市には、文書で調査をさせていただきました。そして、それぞれが抱えるニーズやシーズを始めとして、都市サミットの管理・運営に関する事など、大変有意義な意見交換を行うことが出来ました。

サミットに求められているテーマとして代表的な声をご紹介しますと、4つのことがあげられます。

まず第1に、環境保護教育・啓発です。東南アジアを中心として最も多くの都市から要望がございました。

2つめが街の美化についてです。これは、市民の街を愛する気持ちや、市民による清掃活動、町並み、景観など多様な課題を含みます。

3つめは、市民参加の推進です。今申し上げたような環境問題への対応などを含めて、多様な取り組みを行うNGO等の組織の活用問題などが含まれます。

そして4つめは、ゴミ処理の問題です。アジアでは埋め立てが主要な処理方法となっている都市が多く、それに関連して、悪臭や土壌・水質汚染などの問題が挙げられました。

そこで、2007年7月に、こうした意見を踏まえ、北九州市に主催をお願いして第7回の実務者会議を開催いたしました。

全体テーマは「住民による美しいまちづくりと都市の魅力」です。その上で、

第1部会では「環境啓発・教育による3R=Reduce, Reuse, Recycleの推進」

第2部会では「持続可能な3Rのしくみと環境ビジネス」

第3部会では「美しいまちづくり 中心市街地の活性化と官民の役割」、

としたところです。第1、第2部会のテーマについては、主催いただいた北九州市が、環境の分野では世界の最先端を行く都市であり、大変充実した内容となりました。参加者アンケートによると7割以上の方が市政の参考になったとの回答であり、1割前後の方は、実際に市の施策などに取り入れたいと回答がありました。第3部会は、福岡市における市民協働のまちづくりを紹介し、ワークショップと併せて企画したものです。

また、視察は、エコタウン、安川電機ロボット工場、および環境ミュージアムなど、世界でも先進的な場所や施設を見学し、参加者に満足いただいたところです。

最終日は、福岡市で、先に紹介しました実務者会議の第3部会とセットである、「美しいダウンタウンと市民参画」と題した「APCS まちの魅力探索ワークショップ第1弾」を開催しました。写真に見られますように、市民とともに、市民によるまちづくり活動の現場を体験したところです。

また、これは直接の実務者会議ではありませんが、関連事業として、福岡に事務所がある国連ハビ

タットの主催で「アジア都市ジャーナリスト会議」を開催しました。

参加者は都市サミット会員都市の主要新聞社の方々です。タイ、インドネシア、シンガポール、ベトナム、フィリピン、マレーシア、中国、韓国、日本の各新聞社 11 社にお集まりいただきました。実務者会議の全てのプログラムにも参加いただくとともに、活発な意見交換会が行われました。その結果、帰国後に記事を作成されるなどで、都市サミットの成果が多くの国の多くの人々に伝わり、大変実り多いものであったといえます。

なお事務局では、これらの事業について、実務者会議参加者にアンケートを行い、分析・評価を実施しました。

11 月には、やはり都市サミットの 2 つめ関連事業として、サミットのこれからを考えるために、「アジア太平洋都市連携専門家会議」を開催しました。アジアを中心とした都市連携を推進する組織の専門家を集めた会議です。世界銀行、国連などの国際機関、自治体連合である UCLG やアジアを中心にシティー・ネット、韓国の 2 つのネットワークと、北九州市、福岡の専門家が一堂に会したものです。

会議では、都市化が急速に進展することから、環境問題や都市間交流、貧困への対応、ごみや水問題等に関し多くの都市問題が派生し、その解決に当たって、都市の果たす役割が益々重要になるとの指摘がありました。しかしながら、こうした都市問題への対応は、個々の都市や、個別の都市連携組織だけでは十分な対応が難しいと意見でありました。結局は、今後、都市の諸組織で情報交換を活発化させ、一層連携を強化させることが求められる、とまとめられ、互いの協力が約束されたところです。

ついで 12 月には、会員都市のタイ、バンコクにおいて、「APCS まちの魅力探索ワークショップ第 2 弾」、すなわち、「まちづくりにおける市民参加推進ワークショップ」を開催しました。福岡とバンコクの両市民が、一緒になって、レクチャーやまち歩き、写真を用いたワークショップなどを体験しました。従来の行政の立場や、自国の住民の感覚とは、全く異なる視点による意見交換ができたところです。こうした成果は、これからのまちづくりに活かされるものと期待されます。

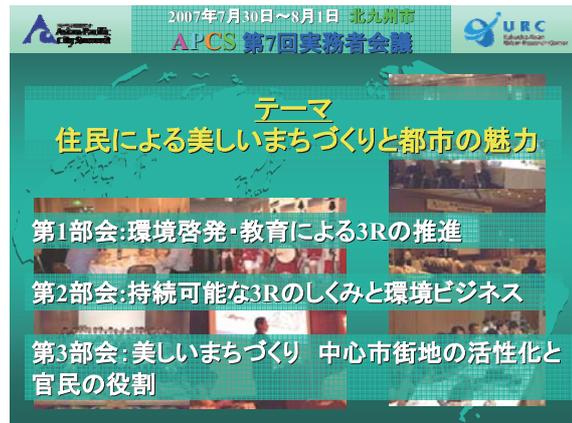
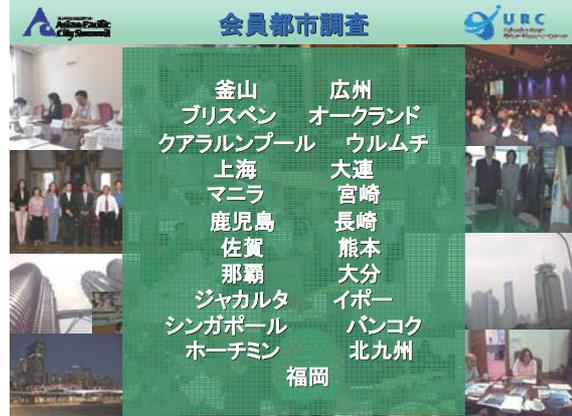
これらの事業以外にも、私ども研究機関がもつシンクタンクとしての機能を活かし、国際間の都市連携やアジアの都市機能、さらには世界主要都市との情報交換などを行い、都市サミットに関わる調査・研究も行いました。それらの成果の一部は私ども研究所のホームページからダウンロード出来ますので、ご利用下さい。

以上が、この 2 年間の活動の流れです。これを踏まえて、今日の大連サミットになりますが、本サミットに平行して「APCS まちの魅力探索ワークショップ第 3 弾」を予定しております。めざましい発展を遂げている大連市で、これからの時代の要請に対応出来るまちづくりを推進するため、“新たな価値の創造”と題した市民参加型のワークショップを行います。興味のある方は是非のぞいていただければ幸いです。

以上で事務局からの経過報告とさせていただきます。なお、次回の開催都市については、決まり次第事務局から皆様にご連絡致します。

最後になりますが、今サミットに会員都市および非会員都市合わせて 36 自治体の方の参加いただいています。ご多忙中にもかかわらずこうして多くの御参加いただいた皆様に心より感謝を申し上げ、また、主催である大連市の関係者の方々には大変なお骨折りがあったことを、厚くお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。



2007年11月27日～28日

Asian-Pacific City Network Forum

ワシントン, D.C. 東京 シドニー 横濱

“躍動するアジアと国際都市連携”

釜山 北九州 大田 福岡

2007年12月13～15日 **バンコク**

APCS まちの魅力探索ワークショップ第2弾

“まちづくりにおける市民参加推進ワークショップ”

その他の調査研究報告

東南アジア地域における自治体政府の国際政策に関する研究

東アジアの国土政策プラットフォーム構築に向けた基礎的情報の整理に関する調査

国際都市戦略比較から学ぶ福岡市の施策展開に関する検討調査

国際都市ネットワーク政策の研究

私どものホームページからもダウンロードできます。(www.urb.or.jp)

2008年9月29～30日

大連市で開催!

APCS まちの魅力探索ワークショップ第3弾

“新たな価値の創造”

APCS Action Report

谢谢你!
고맙습니다!
спасибо!
cám ơn anh!
Thank you!
ご静聴ありがとうございました。